



上里町地域公共交通計画 骨子（案） 【現状・課題・基本方針】

第5次上里町総合振興計画 後期基本計画

【将来像】
『ひと・まち・自然がともに輝く
“ハーモニータウン かみさと”』
施策目標6-3 持続可能な地域公共交通の整備

- 本町の現状にあった地域公共交通ネットワークの形成に努め、利便性を向上させつつ、持続可能な地域公共交通を実現させることをめざします。

上里町都市計画マスタープラン

【将来像】
『ゆとりと成長力に満ちあふれた田園交流都市 かみさと』
【鉄道利用環境の充実】

- 神保原駅は再整備を関係機関と調整を図りつつ検討します。また、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入等を図り、利便性の向上に努めます。

【コミュニティバスの充実】

- 「こむぎっち号」の安定運行に努めるとともに、経営動向を見ながら、路線及び便数などの改善・拡充を検討していきます。

上里町立地適正化計画

【都市づくりの目標】
『拠点を中心に交通ネットワークでつながる、
安全に住み続けられるコンパクトなまち』
施策1-3 公共交通サービスの構築

【交通結節機能の強化】

- 「拠点市街地」と「住宅市街地」を結ぶ交通ネットワークの充実・強化を図り、公共交通の利用を促進します。

【現状】

- 上位計画等によりバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が求められている
- 総合計画策定時のアンケートでは、町内や近隣への交通手段として充実すればいいと思うことに、37%の人が「障害者や高齢者などのための送迎サービスの充実」と回答している
- 高齢化率が既に40%を超える地域が町内全域に分布しており、今後も高齢化率の増加が予測されている
- 人口動態の変化として、子育て世代の転入が見られる
- 令和5年度のこむぎっち号利用者のうち、約5割が「手帳割引」と「高齢者無料パス」利用者である
- 高齢者の運転免許証返納者数が増加している
- 町民意識調査の結果、「こむぎっち号」への不満として「どこを走っているかわからない」「停留所の場所がわからない・わかりづらい」といった、情報提供に関する内容があげられている
- 立地適正化において、神保原駅周辺が「拠点市街地（都市機能誘導地域）」に指定されており、各地域から神保原駅までのアクセス手段の確保が求められている
- 総合計画策定時のアンケート結果より、上里町が住みよくないと回答した人の44.1%が、「町外への交通の便が悪い」ことを理由としている
- 町内と町外を結ぶ広域の移動を担う公共交通は、JR高崎線と路線バスの2つのみであり、町外を結ぶ公共交通との連携が求められる
- 「こむぎっち号」の北部・南部ルートの利用者数は、中央ルートと比較して少なく、1便当たりの利用者数では1人/便未満の便がある
- 「こむぎっち号」の北部・南部ルートでは、利用されているバス停留所が偏っており、非効率な運行となっている
- 町民意識調査の結果、「こむぎっち号」に対して36.4%の人は不満を持っており、「利用したい時間帯に運行していない」「運行が1日おきで利用しづらい」「運行本数が少ない」といった、運行内容の改善に関する意見があげられている
- 利用者ヒアリングの結果、運行日に関する不満理由として「日曜日運行」を求める意見があげられている
- 路線バスの運行経費は年々増加傾向にあり、コロナ禍から利用者数は回復しているものの、路線バスの収支率はコロナ禍前と比較して減少している
- 「こむぎっち号」の運行経費が年々増加しており、「こむぎっち号」の令和5年度の収支率は1.8%と低い値である
- 代表交通手段は自動車であり、公共交通の利用は4%程度に留まっている

【課題】

誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

今後増加する高齢者の移動需要への対応

神保原駅を中心とした都市構造への変革

地域の需要や利用者ニーズに応じた交通サービスへの見直し

公共交通の持続的な維持

【基本方針】

基本方針1 利用者ニーズに対応した公共交通サービスの構築

今後の高齢者の増加や、障害のある方、町外からの転入者の増加等、公共交通を必要とする方は増加しており、公共交通を維持していくことの重要性が増している。

一方で、現状の利用状況の分析やアンケート調査の結果より、利用者ニーズとの不一致等が発生していることが示されている。

町内の公共交通網を見直し、利用者ニーズに対応した公共交通サービスを構築する。

基本方針2 町民、交通事業者、行政の協働による持続可能なしくみづくり

公共交通の重要性が増している一方で、町内の人口は今後も減少していくことが予測されており、さらに運行経費の増加等の課題が生じている。

将来的に公共交通を維持していくために、町と運行事業者が協力し利便性の高いサービスを提供していくとともに、町民に利用していただくことで、町民・交通事業者・行政の協働による持続可能な仕組みづくりを行う。



上里町地域公共交通計画 骨子（案） 【長期目標・施策・位置づけと役割分担】

【上位・関連計画】

第5次上里町総合振興計画 後期基本計画

【将来像】
『ひと・まち・自然がともに輝く
“ハーモニータウン かみさと”』

施策目標6-3 持続可能な地域公共交通の整備

- 本町の現状にあった地域公共交通ネットワークの形成に努め、利便性を向上させつつ、持続可能な地域公共交通を実現させることをめざします。

上里町都市計画マスタープラン

【将来像】
『ゆとりと成長力に満ちあふれた田園交流都市 かみさと』

【鉄道利用環境の充実】

- 神保原駅は再整備を関係機関と調整を図りつつ検討します。また、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入等を図り、利便性の向上に努めます。

【コミュニティバスの充実】

- 「こむぎっち号」の安定運行に努めるとともに、経営動向を見ながら、路線及び便数などの改善・拡充を検討していきます。

上里町立地適正化計画

【都市づくりの目標】
『拠点を中心に交通ネットワークでつながる、
安全に住み続けられるコンパクトなまち』

施策1-3 公共交通サービスの構築

【交通結節機能の強化】

- 「拠点市街地」と「住宅市街地」を結ぶ交通ネットワークの充実・強化を図り、公共交通の利用を促進します。

【課題】

誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

今後増加する高齢者の移動需要への対応

神保原駅を中心とした都市構造への変革

地域の需要や利用者ニーズに応じた交通サービスへの見直し

公共交通の持続的な維持

基本方針1 利用者ニーズに対応した公共交通サービスの構築
基本方針2 町民、交通事業者、行政の協働による持続可能なしくみづくり

長期目標

目標①：まちづくりにおける政策と連携し、都市機能の基盤を形成する

「立地適正化計画」で示されている”コンパクトで持続可能な都市構造”の実現に向けて、各公共交通が連携することで、神保原駅を中心に各拠点を結ぶ公共交通ネットワークの維持・強化を図る。

目標②：持続可能な公共交通網を実現する

公共交通を維持していくためには、上里町だけの取り組みでは限界があるため、町民や各交通事業者にも積極的な参加、利用を促し、公共交通運行の体制および財政の両面で持続可能な公共交通体系を構築する。

短期目標

目標①：利用実態を踏まえた公共交通網への見直し

将来の都市構造や公共交通の利用実態、町民意識調査結果を踏まえるとともに、各公共交通を連携させることで、町民にとってより利用しやすい公共交通網への見直しを行う。

目標②：誰もが利用しやすい公共交通サービスへの改善

今後増加する高齢者や、障害のある方等の移動手を確保するとともに、利用者ヒアリング等で把握した利用者ニーズへ対応したサービスへ改善を図る。
また、サービスの改善とともに、利用促進による公共交通利用者の増加を図る。

【施策の概要】

神保原駅の交通結節点としての機能向上
➢ 「神保原駅北口まちづくり基本計画」等と連携した、公共交通の利用しやすい交通結節点の整備

「こむぎっち号」の再編による利便性の向上
➢ 中央ルートの利便性向上（ルート見直し、ラウンドダイヤの導入、日曜運行）
➢ デマンド交通の導入（150m圏内での停留所設置、毎日運行）

鉄道との乗り継ぎ改善
➢ 鉄道の時刻表に合わせたダイヤへの見直し

誰もが利用しやすい車両の導入
➢ 「こむぎっち号」：ノンステップバスの導入
➢ デマンド交通：車椅子のまま乗車可能な車両の導入

運賃の見直し
➢ 「こむぎっち号」の運賃値上げ

公共交通に関するさらなる情報提供
➢ バスマップの作成及び配布
➢ 路線バスの乗り方教室の継続
➢ デマンド交通の乗り方教室・登録会の開催

公共交通の利用促進
➢ 「こむぎっち号」の割引制度の継続、定期券の導入
➢ デマンド交通の割引クーポン等の導入検討
➢ 広域交流拠点や商業施設を結ぶ「こむぎっち号」の日曜日運行

データや利用者の意見に基づく定期的なサービス改善
➢ 「こむぎっち号」及びデマンド交通の利用実績や利用者の意見に基づき、定期的にサービス内容の見直し

周辺自治体との連携
➢ 近隣市町のデマンド交通との乗換が可能な停留所の設置

【位置づけと役割分担】



バス停までの移動が困難な方
福祉施策における「福祉タクシー制度」や「上里町高齢者お出かけサポート助成事業」等のタクシー助成の活用

デマンド交通	人口（人）	路線バス	上里町立地適正化計画
北部エリア	1 - 250	路線バスルート	都市機能誘導区域
南部エリア	251 - 500	施設	居住誘導区域
「こむぎっち号」	501 - 1000	主要な商業施設	
中央ルート	1001 以上	交通結節点	
		町外への交通手段（鉄道・路線バス）との乗換地点	

交通手段	役割
鉄道	・町外への移動を可能にし、広域的な移動を担う。
路線バス	・町内及び近隣市町を結び移動を担う。
こむぎっち号	・定時定路線の運行により、町内の基幹交通を担う。
デマンド交通	・需要に応じた運行により町内全域を面的にカバーし、町内の日常生活における移動を担う。
個別輸送（タクシー）	・個別の移動ニーズに応じた柔軟で自由度の高い移動や、福祉サービス（タクシー助成）としての移動を担う。